



**ねの識別**

- ・未然形+ね・・・打消の助動詞「ず」の已然形の「ね」。下に「ば」「ども」が付くか「こそ」の結び
- ・連用形+ね・・・完了の助動詞「ぬ」の命令形「ね」。文を終止する
- ・ナ変動詞(死ぬ・往ぬ)の命令形活用語尾の「ね」
- ・ナ行下二段活用「寝」「寝る」の活用

**「たり」「り」**

- ・訳して「た」が合つ場合は「完了」、「ている」「てある」が合つ場合は「存続」。
- ・「り」は四段動詞の已然形と、サ変の未然形とだけに接続する。「さみしい」「り」「ちやんで覚える」

**「たり」の識別**

- ・体言+「たり」・・・断定の助動詞。体言にしかくつかないから区別が簡単!!
- ・連用形+「たり」・・・完了・存続の助動詞。「くしまった」「くしている」と訳す
- ・形容動詞(タリ活用)の活用語尾。タリ活用は漢語が語幹になるので見分けやすい

**完了の助動詞の識別**

- ・つ・ぬは強意の用法のある完了
- ・自然的な自動詞には「ぬ」、意志的な他動詞には「つ」がつく
- ・たり・りは存在の用法のある完了
- ・訳し方 「つ」「ぬ」・・・してしまつた・くしまった(完了)
- 「たり」「り」・・・して(存続)
- 「たり」「り」・・・した(完了)

完了+過去・・・「つ・ぬ・たり・り」+「き・けり」は「くた、くってしまった」と訳す

**「む」「むす」**

「スイカ力エテ!」の意。「推量・意志・勧誘・仮定・婉曲・適当」

- ・一人称+む・・・意志
- ・二人称+む・・・適当・勧誘
- ・三人称+む・・・推量
- む(連体形)+「は」「に」「を」「には」・・・体言・・・仮定
- む(連体形)+体言・・・婉曲
- ・勧誘は、相手に呼びかけて、「・・・するがよい」とすすめる意味である。
- ・勧誘の「む」は、「こそ」の形をとることが多い。
- ・婉曲とは、実現してないことを仮定的にいう場合で、断定をさげ表現をやわらげる用法である。
- ・仮定の「む」は、「・・・したら」「・・・ても」の口語訳があたる。
- ・「む」(推量)の父さん、「けり」(過去)の母さんとの間の子は「けむ」(過去推量)
- ・「む」(推量)の父さん、「らし」(推定)の母さんとの間の子は「らむ」(現在推量)

**「らむ」**

- ・原因・理由の推量「は、見聞していることについて、その事実の原因・理由を推量する方法。
- ・原因・理由の推量の「らむ」の公式=原因・理由+事実+らむ

**「らむ」の識別**

- ・終止形に接続は推量の助動詞「らむ」の連体形(終止形)
- ラ変は連体形に接続。「くいるだろつ」と訳す
- ・打消の助動詞「ず」の未然形の一部+推量の助動詞「む」の連体形(終止形)
- ・完了の助動詞「り」の未然形+推量の助動詞「む」の連体形
- ・完了の助動詞「たり」の未然形の一部+推量の助動詞「む」の連体形
- ・ラ行四段動詞の未然形活用語尾+推量(意志)の助動詞「む」の終止形

**「けむ」**

- ・過去の事実の推量は、「けむ」のすぐ上の事実を、疑問の気持ちで推量する方法である。
- ・婉曲の「けむ」は、連体形の場合だけである。

**「らむ」**

- ・「らむ」のすぐ上の部分が推量される部分で、根拠は推量される部分の上か、「らし」の下に示される。

**推定**

推定の「なり」「めり」「らし」「は」「らしい。くようだ」と訳す

**願望**

願望の「たし」「まほし」「は」「たい」と訳す

**「けり」の識別**

- ・過去の助動詞「けり」の已然形
- ・連用形に接続。終止形や語幹には接続しない
- ・形容詞の已然形活用語尾の一部
- ・推量の助動詞「べし」の已然形の一部
- ・打消推量の助動詞「まじ」の已然形の一部
- ・力行四段活用の已然形の一部+完了の助動詞「り」の已然形

**「し」の識別**

- ・サ変動詞「す」の連用形。動作を「する」の意のときはサ変
- ・過去の助動詞「き」の連体形。連用形に接続する(ただし、力変・サ変動詞には未然形にも接続する)。「くた」と訳す
- ・副助詞「し」はなくても意味が通じる。訳も特にないが強意「!」と覚えよう

**「しか」の識別**

- ・指示副詞の「しか」。「そのように」と訳す
- ・過去の助動詞「き」の已然形。連用形に接続する場合はこれ!
- ・接続助詞「ば」「ど」「ども」が接続する場合。係助詞「こそ」の結びの場合は過去の助動詞「き」の已然形
- ・過去の助動詞「き」の連体形「し」+終助詞「か」

**「して」の識別**

- ・体言・連体形に接続は、格助詞の「して」。使役の対象・手段・方法・共同の動作の用法がある。「くで」と訳す

・サ行四段動詞の連用形活用語尾「し」+接続助詞「て」。動詞の活用形から判断する。

・連用形に接続は、接続助詞「して」。直接動詞にはつかないよ。「て」と訳す

・サ変動詞「す」の連用形「し」+接続助詞「て」。動作を「する」の意の時はこれ！

との識別

・格助詞の「と」。体言・連体形・引用文に接続。「と」は会話全体を一つの体言と扱う役目もする。引用のと。「と」と「の」とは強意。「どんどん」と訳す

・副詞の一部の「と」「と」がなくても意味が通じる場合はこれ

・ナリ活用形容動詞の連用形活用語尾。漢語が語幹の時はこれ

なの識別

・副詞の「な」は「な・・・そ」の形で禁止の意

・「するな」と訳す

・終助詞(禁止)の「な」。終止形に接続(ラ変は連体形接続)。「するな」と訳す

・願望の終助詞の「な」は文末(未然形)につく。「しようよ」と訳す。「な」は自己につけば意志、他者につけば希望の意になる

・完了の助動詞「ぬ」の未然形の「な」。連用形接続

・断定の助動詞「なり」の連体形の撥音便形(んの無表記)。体言・連体形に接続。「な」の下に「る」を補える

・ナ変動詞「死ぬ」の未然形活用語尾

なむの識別

・体言(連体形)+なむ・・・未然形にはつかなくて、文末を連体形で結ぶのは強意の「係助詞」。「！」の意

・未然形+なむ・・・文末に用いられて願望の意を表すのは他への願望の「終助詞」。「してほしい」と訳す

・連用形+なむ・・・完了(強意)の助動詞「ぬ」の未然形+推量の助動詞「む」の終止形の「なむ」「きつと」だろ」と訳す

・ナ変動詞(死ぬ・往ぬ)の未然形活用語尾+推量(意志)の助動詞「む」の終止形の「なむ」

・ナ変動詞の活用から判断しよう

なりの識別

・形容動詞か「名詞+なり」か迷ったら・・・副詞の「いと」をつけてみる。意味が通れば形容動詞

・連体詞の「ある」をつけてみる。意味が通れば名詞+なり

・終止形+「なり」は伝聞・推定

・(ただし、四段につく場合とラ変につく場合は要注意。文脈で判断してね)

・「とかがいう」と訳す

・体言・連体形+「なり」は断定

(ただし、四段・上二段・ラ変につく場合は要注意。文脈で判断してね)

にの識別

・格助詞「に」は体言・連体形接続。連体形の場合には下に体言が補える

・「ただ」に「一」を重ねて間に格助詞は強意の意。「どんどん」と訳す

・接続助詞の「に」は連体形に接続。連体形の下には体言は補えない

・「と」で「と」訳し偶然条件を表すことがある

・「と」で「と」訳し原因理由の順接確定条件

・「と」だが「と」訳し逆接確定の用法

・尊い方が主語の場合につく「に」は尊敬の意。「には」と訳す

・完了の助動詞「ぬ」の連用形の「に」。連用形に接続

・断定の助動詞「なり」の連用形の「に」。体言・連体形に接続

・「はべり」「あり」につくことが多く、係助詞が間にはいることが多い

・「である」と訳す

・ナリ活用形容動詞の連用形活用語尾の「に」。上に程度の副詞をつけることが出来る

・ナ変動詞(死ぬ・往ぬ)の連用形活用語尾

・副詞の一部の「に」

にての識別

・格助詞の「にて」。体言・連体形に接続。「で」と訳す

・断定の助動詞「なり」の連用形+接続助詞「て」の「にて」。体言・連体形に接続。「であつて」と訳す

・ナリ活用形容動詞の連用形活用語尾+接続助詞「て」の「にて」

・状態・性質(らうたげ・をかしげ)などにつくのはこの場合

・「であつて」と訳す

ばやの識別

・未然形に接続は終助詞「ばや」

・願望の意味になり自分の願望を控えめに表す

・終助詞だから文末にあるので見分けやすい

「たいなあ」と訳す

・未然形に接続は接続助詞「ば」+係助詞「や」

・順接仮定条件になる

「ならば」だろつか」と訳す

願望の終助詞

「ばや」「てしがな」「にしがな」・・・自己の願望「たい

「なむ」「もがな」・・・他への願望「してほしい」「いいのになあ

べしの識別

・「スイカトメテヨ」「推量・意志・可能・当然・命令・適当・予定」

・「カイスギトメテヨ」「可能・意志・推量・義務・当然・命令・適当・予定」

・強い推量の助動詞「べし」三人称+べし・・・「確実性の強い推量」

「きつと」だろつか」と訳す

「きつと」だろつか」と訳す

「きつと」だろつか」と訳す

「きつと」だろつか」と訳す

「きつと」だろつか」と訳す

「きつと」だろつか」と訳す

「きつと」だろつか」と訳す

「きつと」だろつか」と訳す

「きつと」だろつか」と訳す

「きつと」だろつか」と訳す

「きつと」だろつか」と訳す

「きつと」だろつか」と訳す

「きつと」だろつか」と訳す

「きつと」だろつか」と訳す

「きつと」だろつか」と訳す

「きつと」だろつか」と訳す

「きつと」だろつか」と訳す

「きつと」だろつか」と訳す

- 一人称 + 「べし」・・・意志。「してやろう」と訳す
- 二人称 + 「べし」・・・適當。「よい」の意。
- 二人称 + 「べし」・・・命令。「しなさい」の意

文脈から判断してね

「はず」の意の「べし」は当然  
「できる」の意の「べし」は可能

【参考】「む」(べしに比べ弱い推量)

- 一人称 + む・・・意志
  - 二人称 + む・・・勧誘・適當
  - 三人称 + む・・・推量
- 「む」「べし」「じ」「まじ」は四角関係！「む」の打消が「じ」「べし」の打消が「まじ」

【反実仮想】

- 「ましかば」
  - 「ませば」
  - 「せば」
  - 未然形 + ば
- ・・・まし 「もしも」したら・・・だろうに「と訳す

【たまふ】の識別

- 四段活用・・・尊敬(おへになさる)
- 下二段活用・・・謙讓(お与えになる・くださる)
- 謙讓・補助(させていただく)・・・会話文・手紙文中で「思ふ」「おぼゆ」「見る」「聞く」「知る」などの語に付くことが多い。

「の」の識別

- 主格の助動詞「が」は「は」
  - 連体格の格助詞・・・体言 + の + 体言
  - 同格の格助詞・・・体言 + の + 連体形 (+ 助詞)「体言で連体形な体言」の「と訳す
  - 準体格の格助詞・・・体言の代用
  - 連用格の格助詞「よように」
- 歌の中の訳しにくい「の」は格助詞の比喩だと考える 「よように」

【ば】

- 未然形 + ば (仮定条件) もしもなら
- 已然形 + ば (確定条件) したので、したところ、するといつも

【と】

- 「と」とも は仮定条件 たとえても
- 「と」とも は確定条件 けれど

【もの】のつく接続助詞

- 「もの」のつく接続助詞はすべて「逆接」・・・ものを、ものゆゑ、ものから、もの
- 「ものを」は文の途中なら逆接の確定条件、文末なら詠嘆「のになあ」

- 「だに・すら・さへ」
- 「だに」「すら」「は」「さえ」「さへ」は「までも」と訳しましょう。
- 「だに」+ 意志・希望・願望・假定・命令表現・・・せめてだけでも

【ぞ・なむ・や・か・こそ】

- 「こそ」・・・已然形、「は逆接!」・・・けれども、
- 「もぞ」・・・連体形 したら大変だ
- 「もこそ」・・・已然形 すると困る

【会話】

- 会話の終わりは「と」「と」言ひて「と」の上
- 「形容詞・形容動詞の語幹 + の・・・や」「は」は「なんと」しい・・・ではないか」と訳す。

「名詞 + (を) + 形容詞の語幹 + み」は原因・理由・・・(名詞)が(形容詞)なので」と訳す。

【反語】

- 疑問・反語の副詞「推量表現は反語で訳す
- 係助詞 + 係助詞(やは・かは)は反語で訳す

【呼応表現】

- さらに
  - つゆ
  - すべて
  - つやつや
  - おほかた
  - たへて
- 打消 全く 少しも ない

【動詞・助動詞の連用形】

- 力変未然形
  - サ変未然形
  - 力変未然形 + ぞ
  - サ変未然形 + ぞ
- 「できない」「できないだろ」「できないだろ」「できないだろ」

【え + まじ・じ】

- 「え + まじ・じ」
  - 「いかに」推量表現
  - 「いかに」意志表現
  - 「よも」打消
  - 「よも」禁止
- 「いかに」推量表現 何とかして「たい、どうにかして」てほしい
- 「いかに」意志表現 何とか・めつたに「ない
- 「よも」打消 まさか・よもや「ないだろ」
- 「よも」禁止 決して「してはいけない